

【米田名譽主宰の俳句】

春 の 森

米田規子

待つことたのし八重椿ぱっちりと
よろこびのふくらむときを囁れり
葱坊主こわばりやすき肩と首
切株の苔むしている春の雲
春の森から長身の老紳士
逢瀬のごと古木にひらく梅の花
ひそやかに董がうたう縁切寺
北鎌倉の小さな駅舎春三月
子らの声散らばつて消え春夕焼
じゅうぶんに花のいのちをさくら色